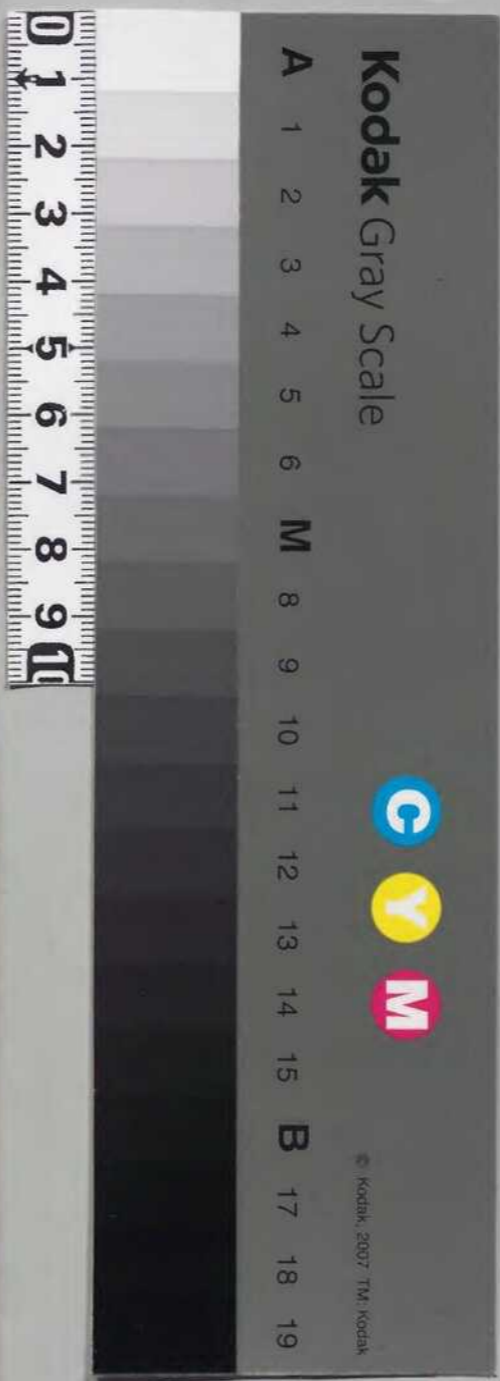


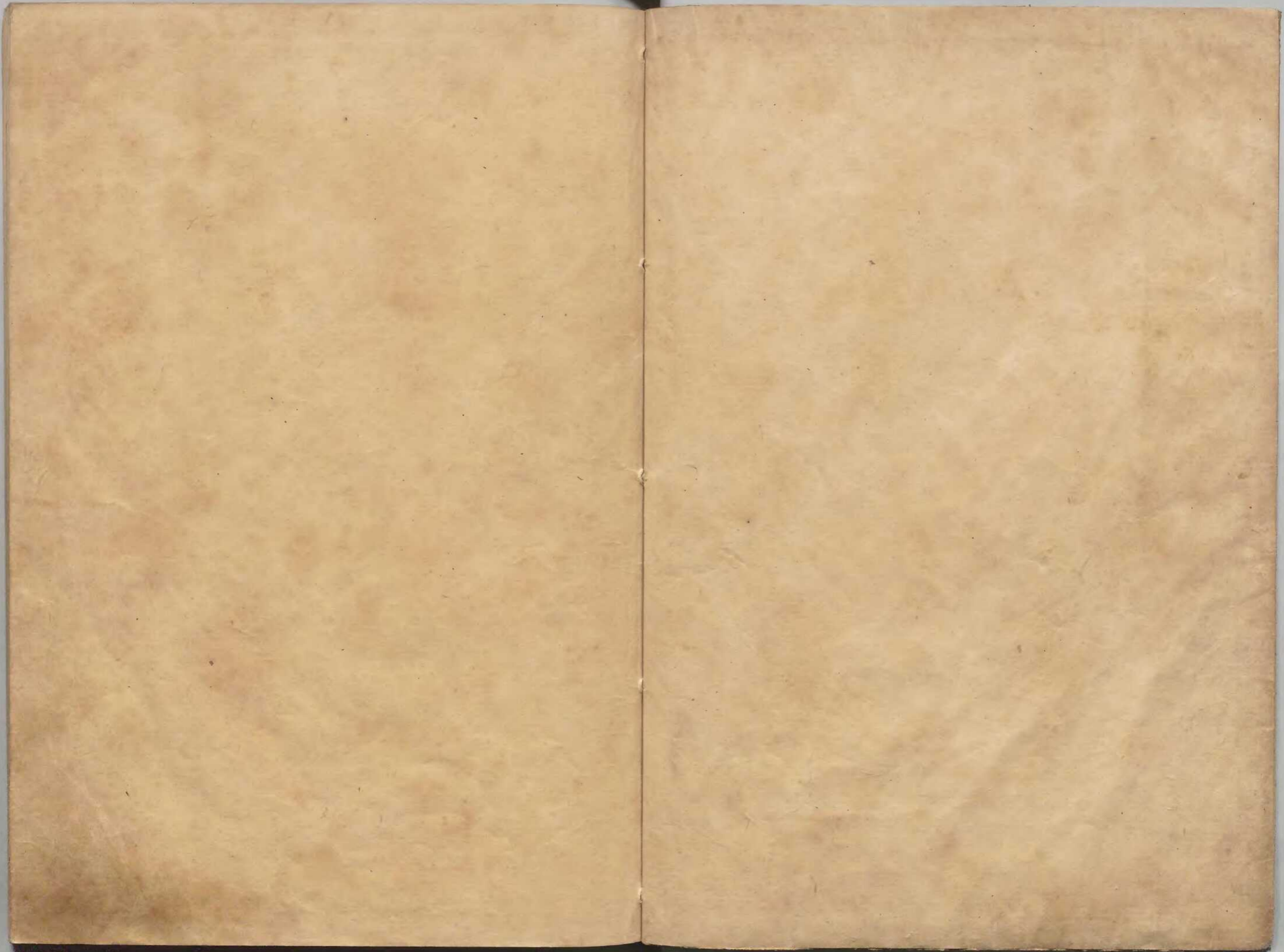
115

寛永諸家譜

支流 藤原氏 癸廿五冊之内 二

| | |
|------|-----------|
| 内閣文庫 | |
| 番號 | 和 20199 |
| 冊數 | 186 (115) |
| 函號 | 特 76 1 |





戸田
市橋

寛永諸家系圖傳

藤原氏

癸二

淺草文庫

戸田

家傳よりいへばこれ先祖を三條家

よりいへばと云ふ

丹波守康長よりりて松平氏と云ふ

● 宗光

源正右衛門尉 法名全久

明應年中又田原城と築

憲光

政光

源正忠

左近

某

彈正右弼

某

石見守尉

某

長門守

丹波守

判官

全書と

村

天文年中冬別牛産のうら新治

村より居一町これ村とせりうら

のら二連本よりうら位と

同二十年今川義元より一居次

永禄年中

東照大権現ひかり冬ふゆ河か下しもまひく丹波入道ふたつ
まへいよよま後助あご志平しへい父子ちちこ三人さんにん清味しみあ
り屋やと屋やこれ 佐政さまがあらまのゆふ
志しここいいききままつつ

系

ま後助

ま後助あごのお母はは人ひと志しららししりりくく吉田きちだ志し

御ごありありししとと氏うぢ志し小原こはら肥ひ前まへささりり
ああててまま後あごままししままふふ
ままののまま永禄えいろく七年しちねん八月やうがつ十一じゅういちののまま後助あご
志し平へいかか系けい枝えだ城じやう中ちゆうへへ入い人にん質しやくをを具ぐ足そく
箱はこへへ入い二連にれん本ほんににくくつつととままののまま後助あご
減へししままののまま吉田きちだのの二連にれん本ほんれれははいい
飽あ美みのの門かどへへいいままののまま後助あご
けけかかららくく町屋ちやうや子こ符ふ名なをを焼やくくいいぬぬ
大権現おほごんげん清油しみゆりりままののまま後助あご

是く昔の日吉氏のさへ下條村より
いそせをまふのわくは事とほま
たしむるゆへに主殿助より
吉田ふりり

大権現は魔下より
こころふ魔下の吉田乃城
こころふ主殿助供を
是より東条河

大権現乃清らるるゆへに

大権現主殿助の軍功と感歎
父が領知八百石九貫とすはり別
二千百貫の地とくしく且つ清
拾遺事とすはり
右も直知り領合三千貫又往末
代五石とすはり
神文

永禄七の甲子

五月十一日

松尾

清諱判

戸田之辰助殿

主殿助今年八月十日吉田と日暮合戦
同日十一月十日とありて戦死
法名念心

系

甚平 隆正 法名孝慶

永禄七年十二月十日

大権現父丹波入道 命にて

永平小兄之辰助が
志願法行ししに
御事之辰助
これより清和寺法行ししに

新知本知如王殿中合人先判
相遠より百段修り着於偽去

神文

永禄甲子

十月十九日 清輝沙判

戸田甚平辰

を川別字は山形部濱松色乃
合戦より馬平葉内志しある

天正年中武田信玄二連本より

と記馬平牛川口門より

とあり首級十七八とあり

大権現より戦ふ所を信玄首級

く返くし酒井左衛門尉なる

馬平冬別大村より又合戦

首をとり事百余あり

大権現より武清後くある人軍

あり事と感

康長

虎子代 孫右衛門 辰五位下

丹波守 辰五位下

大権現松平氏と云ふは康の字と云ふ
 こゝに於ては康長と云ふは康長幼程と
 云ふは父の遺詔に依りてに依りて法書
 といふ事なるを詞に云ふ
 但先判之旨詔書に依りて不可
 相違之條なる書通之なる也の件
 永禄十年丁卯

六月日 清韓法判
 松平虎久代取

大権現康長の外舅戸田傳十郎
 康長の傳と云ふは
 法書に依りてに依りて

虎久代名代之事

- 一 虎久代名代之事
- 一 知り而務等は不可為相討事
- 一 詔被官扶持給傳十郎見合下出
- 一 并侍高虎久代江
- 一 傳十郎付自於沙汰

の入留事

右條々不^あの^さお^さ進^い若^し遠^い少^し
雖^も全^く祈^り詔^し奉^じ一^切不^可許^す
言^ふも^も是^れ仍^も如^し件^件

永禄十一^{戊辰}年

二月日

清諱^{いひ}清判^ひ

戸田傳十^反

そのら

大権現清妹と康長と嫁

乃^や仙^{せん}あ^あの^のと^とし^しと^と御^ご書^{しよ}と^とし^し

はと^と記^き康^か長^{ちやう}と^と来^きる^らわ

と^と正^{せい}三^{さん}年^{ねん}冬^{ふゆ}列^{れつ}長^{ちやう}原^{げん}合^{がっ}戦^{せん}れ^れと^と

傳^{でん}十^{じゆ}郎^{らう}康^か長^{ちやう}と^と代^{だい}と^と高^{かう}原^{げん}れ^れと^と

賣^{ばい}家^け人^{にん}お^おわ^わけ^け軍^{ぐん}功^{こう}あ^あり^り

大権現遠^{えん}少^{せう}高^{かう}を^を神^{かみ}と^と政^{せい}仕^し奉^{ほう}と^と御^ご書^{しよ}

時^{とき}傳^{でん}十^{じゆ}郎^{らう}と^とい^いと^と妻^{さい}人^{にん}お

大権現小^{せう}と^と志^しと^とい^いと^と康^か長^{ちやう}初^{しよ}め^め

戦^{せん}場^{ばう}の^のと^と祈^{ねが}ひ^ひと^とい^いと^と康^か長^{ちやう}初^{しよ}め^め

うぢん

大権現ささこしりしれらこれしり
きまふ康長ささこに郭内へ入火を
けりし家屋と焼くこのさ康長
十三年あ

同七年

大権現後河田中に法陣れとさ康長
田中の内平為とせりやゆ
同十二年尾河羽黒台戦れり康長

酒井左馬の射とさく池田勝入
陣とやうり康長自身強候して
敵の衆人おと突首級と得りけり
康長二十一歳なるあ
同年尾河小牧陣のさ康長衆人
戦功あり

慶長五年開原陣のさ康長水
日向あ

大権現の作とさ濃河大垣

城にせしむるにまひく康長が家人武を
討にありいを庇とかうまれあま
なりそのら城主和とまふこをせふ
康長まひふ日向を丸とうあふ
康長ふのまふこ二十七歳なり
元和元年大坂陣の時康長自身
敵陣よりむいを庇とかうま
三ヶにちわ家人もまふこありいを庇
武を庇とかうまありいを軍功あり

みまき康長五十二歳なり
康長しめく矢列二連本三千貫の
地は地を

大権現園東津入園の時二連本とあり
武列東方よりまひく一萬石の地を
まふこよりち東あまのりく光下総の
國右河の城とたりりく二萬石とあり
まふこは改常陸の園並園の城を
まふまふりく二萬石とあり

あつしめとつしつ乃城とを治りて又方
石を領とすこと後とつしつ乃城とを信別
城を治りて七万石を領とす
寛永十一年より率とす七十一
法名宗智

忠光

加賀守 辰五郎下 子世 法名良端

康直

依波守 辰五郎下 丹波守
父より社とつしつ乃城とを治りて又方
明石の城とを率とす七万石を領とす
十八歳より率とす 法名賢忠

光重

孫守 辰五郎下 丹波守
父より社とつしつ乃城とを治りて又方
明石の城とを治りて又方 康直より率とす七十一
明石の城とを治りて又方 明石と改免

忠少ちゅうしょうが細ほその城しろとをまゝらり七しち万まん石いしと飲のみ
去こし

家故けこと星ほし

● 宗克 しやうこく

淳正在野の尉 生國春河 活名桂岩金久 いんせいのりゅう
しやうけい 明應年中 小巻河田原北城と築 きづ

戸田 とだ

家傳 けだん 一 い く ま は ち は つ き の 祖 と の 條 あり けり
と り か し 云 々

憲光 つらら

彈正忠 だんしょうのちか

生國同家

法名信漢 まけいけん 全忠

某

玄蕃 げんぱん

生國同前

法名善法 ぜんぽう

重頼 しげより

又善兼尉

生國同家

東照大権現ひがししょうだいけんげんふしふしくくききくくままつつるる泰列岩たいれつがん

いいままいいのの合あ邑いととををまますす

慶長六年けicho六年城しろ列れつ伏見ふし見のの清きよ城しろ善ぜん法ぽう

いいままいい

同十二年どうじふにねん四月しがつ二十にじゅう日にち伏見ふし見よりよりいいりり

死し後ご永なが享かう七しち年ねん八はち法ぽう名な善ぜん法ぽう

重秀 しげひで

又善兼尉

生國同家

大権現オホケンゲン 一ツノキチノミヤノミヤ
長文十六年四月八日（元暦） 張列（張列） 不（不） 死（死）
死（死） 長文十七 法名（法名） 拓史（拓史） 全義（全義）

直次ナカツギ

又久（又久） 生國（生國） 野（野）

大権現

台位（台位） 院（院） 殿（殿）

將軍家（將軍家） 一ツノキチノミヤノミヤ

寛永十二年八月二十日（寛永十二年八月二十日） 曾武列（曾武列） 江戸
死（死） 長文四十二 法名（法名）
拓史（拓史） 全義（全義）

直政ナカマサ

大前（大前） 右（右） 少（少） 尉（尉） 生國（生國） 武（武） 藏（藏）

十（十） 二（二） 年（年） 一（一） 月（月） 一（一） 日（日）

將軍家（將軍家） 一ツノキチノミヤノミヤ

十九（十九） 年（年） 一（一） 月（月） 一（一） 日（日） 直次（直次） の（の） 法（法） 名（名）

直長

振右衛門尉

大権現

右徳院殿

將軍家よりけりたるもの

寛永十七年小死次

直良

左衛門尉

生國武藏

將軍家よりけりたるもの

直良

右衛門尉

生國武藏

慶長十二年

右徳院殿よりけりたるもの

同十九年大坂陣よりけりたるもの

元和九年より

將軍家よりけりたるもの

重次 おもむき

市之丞 生園同家

寛永九年

將軍家より侍人等とて侍ら

政光 まさみつ

左近 二侍と号すと生園次河 法名
天壽全集

某

彈正少弼 だんしょうのせうりゅう

法名 花林全集 くわんざんぜん

某

高木守

松平丹波守が祖名圖よふカキ

重高 ちかたか

十右衛門尉 生國冬河
長六年九月げつひらひ死しと歳七
七なな法石月桂げつげい位

重元 ちげん

才平 十右衛門尉 後備のちのり後のち也なり
伊いと 生國なまこく同どう也なり

大権現冬列おほごんげんふゆり長なが藤ふじ冬ふゆ列り

はらへり

正三年冬列ただし三年ふゆり長藤ながふじ冬列ふゆり
武田勝頼たけだかつらゆきと合戦あはれののちに松平まつだいら又七
家副けふたけ一ひと房ふさ一ひと房ふさ一ひと房ふさ一ひと房ふさ
とあとと織田信長おだのぶながとあとと織田信長おだのぶなが

大権現おほごんげん冬列ふゆり

戸田とだとあとと織田信長おだのぶながとあとと織田信長おだのぶなが
伊いと 生國なまこく同どう也なり

右瀬院殿ついでついでついでついでついでついでついでついで

このころ十良右衛門と称なす

長長五年と松景務謀板乃とと

下野國守部ついでついでついでついでついでついでついで

ついでついでついでついでついで信引と田ついで

供守ついでついでついでついでついでついでついでついで

鳥毛の指ついでついでついでついでついでついでついでついで

ついでついでついでついでついでついでついでついで

同八年正月ついでついでついでついでついでついでついで

重康しげやす

同十五年九月ついでついでついでついでついでついでついで

生國冬ついでついでついでついでついでついでついで

大権現ついでついでついでついでついでついでついでついで

右瀬院殿ついでついでついでついでついでついでついで

慶長七年七月ついでついでついでついでついでついでついで

三十七法名宗照ついで

重政

本年 生国武苑

慶長七年七条のち父重康

がまじ法とゆふり

右徳院殿よりけり

重勝

虎之助 生国同前

寛永十五年

右軍家小孫湯とらよりけり

光正

本年 生国冬河

大権現

右徳院殿にまじりてけり

慶長五年吉田陣よこのち信列のちより

よりけり 作を

うちの御りて所田札奉行と行
 こゝろの御教共味をいづく御
 光正いすご軍令をささうらゆ御教
 とあひまじりて御事をあはれそ
 せりしむる信列我妻よりうつ
 らしむる三年と控ぬる御
 めりしむる御事いづく大番
 と行り

同十八年六月死す 奉軍中

重宗 ちゆうしゆ

藤五郎 生國後河

慶長五年

右連院殿よりつへてつりて御

足と御りて奥列をいづく

馬向陣乃侍をさつていづく御

年十二奉り

同十九年大坂陣乃侍をさつて御

元和元年大坂再戦の御事

級を得く^{いふ}志^{こころ}二ヶ所と^{いふ}か^{いふ}う^{いふ}志^{こころ}れ
ども^{いふ}は^{いふ}か^{いふ}る^{いふ}れ^{いふ}志^{こころ}愈^{いふ}む^{いふ}く^{いふ}同
三年十二月二十九日^{いふ}死^{いふ}す
法名^{いふ}隆山夕^{いふ}々^{いふ}

主種

友五郎 生國武苑
元和三年父^{いふ}名^{いふ}宗^{いふ}が^{いふ}志^{こころ}立^{いふ}まつ^{いふ}身
右^{いふ}進^{いふ}院^{いふ}殿^{いふ}より^{いふ}は^{いふ}り^{いふ}く^{いふ}ま^{いふ}り^{いふ}く^{いふ}身^{いふ}た^{いふ}ぬ

將軍家よりはりくま

正好

本年 生國武苑
父^{いふ}光^{いふ}正^{いふ}の^{いふ}志^{こころ}立^{いふ}まつ^{いふ}身^{いふ}
右^{いふ}進^{いふ}院^{いふ}殿^{いふ}より^{いふ}は^{いふ}り^{いふ}く^{いふ}ま^{いふ}り^{いふ}く^{いふ}身^{いふ}
寛永四年

將軍家よりつりあはるし 作^{いふ}あ^{いふ}り^{いふ}く
大^{いふ}清^{いふ}番^{いふ}の^{いふ}組^{いふ}以^{いふ}と^{いふ}り^{いふ}

光定

光定の討

田原の討死

光忠

光忠の討

生國冬河

光定

七内 坂平右衛門の討と号と

生國冬河

永禄七年

大権現を拜

同年冬引田原の城をせりぬ

光定は此素三平邸と鑑を

あはせきとて軍忠とあはんは

事と九右衛門勝則が下まつ事

光定

元龜三年

大権現三方原湯近陣の討光定

屏風びんぼうよりなるい〜敵てきありし事
くら恋こひする事三ヶ所あり
このい〜演松えんしょうに信しんする事
い〜い〜い〜い〜
天正三年長篠合戦の〜に徳下
い〜い〜い〜首級しゅけいとね〜
同四年を列れつ乾合戦けんあつせんに陣じん志
い〜い〜い〜徳草とくくさ鞠まりと志し〜
い〜い〜い〜城しろ中ちゆう乃の兵へい大だい小せう呼こ〜

い〜徳草とくくさ鞠まりと志し〜
い〜い〜い〜い〜
同十八年小田原陣おだわらじんの〜
作しやうを〜い〜い〜
信しんする事〜

天長五年

右徳院とくゐん殿のり大久保相模守おほくべさうもりと〜
他の自みづかみあま〜い〜又また清純しやうじゆん奉ほう
行ゆき〜い〜い〜田でん

陣だ入りたるもしくととさらぬし
修しゆもみはほしむる事だあこたは
同十九年大坂清陣だありかゝる清
治しゆのりりとわくく供くもよと
元和元年大坂再戦のとき大
江戸清城るあぢぢ番ばんとつつて
同六年六月五日死すと年八十四

忠重

久右衛門尉 生國同家
又十二歳ありて死すと 法名ほうな智ち賢けん

重吉

忠右衛門尉 常列水戸に生る

政重

七内のち敷しきのららと久右衛門尉と号すと
生國冬河

十三日のこと記し置る

大権現よりつくとくをいへり

中とあるのよき

右位院殿より清和天皇の御書

はらへしあつち 依りてわく清和院

番より列せ

文治五年高田陣の供物を勤

同十九年大坂清和院より志

くひをいへり

元和元年大坂再陣乃ら記候

奉を記し免五月七日より首級

をいへり

同二年より

將軍家より清和天皇をいへり

政次

七内 生園武藏

元和九年正月二十日

台徳院殿を拜し

寛永元年正月法小姓こせう但たつ

外としし所書と法しを

同十六年

將軍殿の 修しゆ法ぽうのの所書しよをを院いん

中興ちゆうけいと 号ごうをを修しゆと

政勝

教馬きやうま 平たい九くのの射しや 生なま園えん同どうのの

十じゆ家けののここ

將軍殿しやうぐんのの法ほう小せう姓じやう但たつ十

とと法ほうのの修しゆ法ぽうのの所書しよをを院いん

小姓こせう但たつ乃の書しよとと法ほう

某

金籠

大権現たいけんげんのの法ほう小せう姓じやう但たつ

信光のり

源光朝射

大権現乃水堂みづどうへしつゝ

八十歳やそとなりしに死にす

光忠のり

源光朝射

右進院殿へしつゝ

之光のり

右右衛門尉 生國なまくにを江

將軍家へしつゝ

信定のり

源光朝射 武列江戸へしつゝ

將軍家へしつゝらうま糧米を

考かう

忠次

三郎右衛門尉 生國三河
先祖田原の城より思世西三河より
伯耆父忠政鴨原よりとひく戦死
しつらの忠次浪人とあつて佐治が
城に遇り居位と
永禄六年在願寺門流一揆の時
佐治がより居 大久保七良右衛門

山田八右衛門と徳とあつて三河の一日の内
を徳とあつて事三方の
大権現演習をせむく忠次が軍功
を井伊兵部が捕直政より
を感し及忠次佐治が
城にあり

大権現と評しつめつるやある
佐治が城とせりつるべこの 作と
かあり酒井左衛門尉が軍功と加勢

〜〜〜〜〜に〜〜〜〜〜
平く市中〜〜〜作務が城をのこし
二九〜〜火をひきひし洗井が洗しもの
〜〜〜〜〜せり入るとさ城申乃
各お多新三郎鉄炮と〜〜〜ぬお次
これ〜〜あ〜〜り〜〜底をのこすはゆへふ
軍をやり〜〜ひささるる〜〜

大権現それ軍功と感〜〜〜〜〜
の清藤君と〜〜〜〜〜

増屋さ〜〜と進をあ〜〜〜事あ
度らり

同七年

大権現冬列吉田の城とせり〜〜
〜〜〜〜〜
あ〜〜せぬ

同八年冬列大津村と〜〜〜
翌年同心二十人とあつかる且同
乃食禄〜〜〜冬列野田村改祥

此とてふ戸田長忠の同九右衛門の同
与又忠の右田左京同弥七郎若食
禄とてふ海軍の忠次と居せし
元龜元年を列演名をせし
逆流ありをのくを堂とひきりて
ひきりんとしつらやとさむ多分毎
忠次 作とつけし海軍の仙とこれと
結のゆへに演名を人びして百分
忠次が同の二十人としてと上もこの演名に

増屋中と西と幾代あしとら事
支度あり

同七年

大権現免列右田の味とせめし海軍
と記忠次次伊加瀬とまひし幾とあ
まをむ

同八年免列大権現とましまし
翌年同の二十人とあはれし同
乃今禄とて免抄野田村紙

有領してを不戸田名もすの同九名も
 同典不名の友田左京同孫七郎名
 言福とて海らと忠次、所傳、於
 之龜元年を別流名よきんく
 逆流ありなき其意といふこと
 忠次作とす事始りて海にこし
 結この頃へは流名れ人々も
 忠次が同の忠次且もは濱名ふ

忠次は濱名ふ
 同三年
 大指現遠列三方原より武田

信玄と合戦し清正陣はさ敵
 出され泣と志ふ忠次はし振事
 教度より及らぬ敵名從さるわ
 く濱松乃城と勢これに流名濱小大膳

かきびく忠次かく外郭とあり
てこれとあり

壬辰四年

大権現遠引する神の城とあり

大屋亮助極田十兵衛芳賀清助
場のわらんとせりやがらぬ

大権現くけりも後ふとあり

清持と清助ふたまると五十貫

来地を孫次郎とあり

同六年

大権現後引遠目の城とせり

記次浅井某とありこれを討取

乃と武田勝頼持舟と出陣と

大権現と引く去とあり

をひく忠次殿とあり

同七年後引田中とのりてとせ免

記次が臣者黒田次郎某と

安形も其来岩と幼三郎福井源義
先多しとあり揚土小屋とせやがら
同十二年尾列長久手合戦の時
忠次して同圍大野より
しとて敵兵勢列と籠城同
く小湊民部五郎三造酒造千賀
孫多向井兵庫大野乃
法勢とてしとて勢列ふとわら
小湊しとてしとて九鬼大隅守軍兵

と合戦と忠次がはる石原孫次郎加藤
高平一書と進とあしと友田孫七郎
福井源義敵陣しとてしとてしとて
やがら忠次しとて孫次郎義死しとて
五十五貫の地を高平しとてしとて
同十八年小田原陣しとてしとて
大権現忠次しとてしとて復仇しとて
士卒と下知しとてしとて作しとて
越前原しとてしとてしとてしとて

たもふれ魔を忠能くしつりこきと
はふ小回原落城のし本多中務
大捕忠勝身并 夫右米の尉元忠平岩
主計以親吉あひつり 忠次等
あどく武義と野下野乃徳城を
請取しつりこきふけし忠次葛西れ
城をせあたせし
同年豆列下回の城をこきふ
文禄元年の録陣乃とま

大権現肥前國名護屋をこきふ
忠次年表つりあつりつりつり
つりしれ事あつりつり 修りつり
下回の城をこきふしつり明年三月
大権現朝録つり渡海つりつり
つりつりつりつり忠次やし事と得に
つりつりつりつり二年三月名護屋
大権現つりつり感つりつりつり

を秀吉ひでよし一ひとりひとひひししららら
この本ほんに水みづ正ただちちびびはは忠ちゅう次じと秀吉ひでよし
湯見ゆみででししららららはは此こゝに秀吉ひでよし乃
いいししらららららら

大権現おほいかりんのの之の樂がくとといいははししててはは二人ふたり守まもり
ある事ことと志こころららししててははれれししるるをを習まなぶ
のの之の法はふぶぶいいししららららはは小こ太た夫ととと
は二人ふたり之の頼たのみみとといいははししるるややあり
慶長二年けichoにふたひ六月むね二十にじゅう二に日にちにに是こゝ列りやく下くだり

清勝きよかつ

ををいいししららららはは年とし七しち 法名ほふな玄雄げんゆう

長なが右みぎのの尉ゑい 生園なまの回まわりり

慶長十三年けichoにじゅうさん三月みづか十七じゅうしち日にちにに死し次じ
東あづま五いつ十八じゅうはち 法名ほふな心こゝろ忠ちゅう全ぜん忠ちゅう

勝吉かつきち

平へい右みぎのの尉ゑい 生園なまの回まわりり

右通院殿

將軍家より侍りて

清次

右中納言

將軍家より侍りて

勝則

右中納言 生國

十七年乃々さる列あり屋よりい

暮浦に集ると幸福といふ人

おけあつてもいふ入る潜ふ

暮浦が城中は志のい入夫とて

いれを射殺のまき城中は善後

神く島本といふも勝則城を築

城を築くのいれさりね能きやと

城のうらよいひく物とてあつて

いれを築くも城中より築か

とらと得く志りぞくは事とらと
大権現の志徳と連とらとらと
伊よいし〜 嘉浦を勇とらとらと 徳則
廿年の方とらとらと 武略とらとらと
事他とらとらと 感とらとらと
永禄七年今川氏直約法を肥後守
を〜 東冬河田原の城とらと
し〜 戸田の一族
大権現の伊保とらとらと

せしつらとらと 勝則とらとらと 戸原とらとらと
愛向とらとらと 欽軍野田とらとらと
假粘地蔵の邊とらとらと 長谷伏とらとらと
挑多とらとらと 戸田とらとらと 右とらとらと 志次欽軍
馬とらとらと 矢とらとらと 欽軍野田
村殺とらとらと 命とらとらと 命とらとらと 命とらとらと

と記戸田七内光之也あこひと記法志
二十郎と記とあひひりあひひりと記勝則
光之の傳つたあつとく夫とくれら
高名とえとり
元龜二年えんきをわさ原合戦の時
歎なげとくく濱松の城と記
と記とく管沼小大膳こごと記
忠次外郎と保たもこれとあせ
勝則とく歎とく人と村殺むらころね

と記に印息いんとくくのら歎と勝則が政
とくとく又とくく菊川くきとくくの夫
れ松十和とあひとく勝則とくくね

忠勝ちゆうとく

豊後右衛門尉 生國なまくにのあ

大権現おほいけんとくくとくくとくく

天正十八年十月てんてい冒死と記しん年七
法名ほふな金かねとくく

政次

孫右軍の封 生國同家の

慶長十年十月

台榭院敷了りつてくつてくつてくつて

同十九年大坂津陣了り信長に

信長に

元和元年大坂津陣五月七日の

合戦小政次城に柵除ふをいひ

首級を討ち取りて

右後信殿大坂の軍功と評傳一行

志もよき永井と次郎評傳ありて

政次軍忠をいひて

同二年後河大細忠長に

大書の担頭とありて

將軍家了り信長に

寛永十年六月稻米をいひ

同十一年 作りて大書

を法に命

同十二年 未比と評領と

家紋六星一文子

吉久

九右衛門尉 生國同の

母小笠原三郎景宗の娘

慶長十四年十月二日死に歳三

法名高壽

吉正

正田源兵衛尉 法名玄貴生國同の

母高尾三郎左衛門尉

正田善武右衛門尉 養子とらん

勝正

平三郎 母高尾正右衛門尉 光元の

娘むすめちりし

長十七年二月十二日死す

法名よみ栄文

貞吉まこと

久助 王國武苑むくにぶち

母ははとよみ

吉連きち

清丸きよまる 王國後河むくにのちがわ

正利まさとし

清水しみず 王國後河むくにのちがわ

清水しみず 王國後河むくにのちがわ

子こと母ははと正吉まさよしの娘むすめあり

寛永十六年八月三日死す

法名よみ清敏

吉成きちなり

吉成きちなり 王國武苑むくにぶち

母をくらよにちし

吉妻

清水権之助 生國武藏

美は正利の同母姉と正利の妻と

をきぐ

素

之九郎 生國 冬河

天正二年冬川長篠合戦の時

欲と組む首級とえりりこれおき

之九郎が母ももこの名とえりり

同年春列強浦原をいりて戦

死に素十七

高次

去佐守 長五位下 生國同母の

天正十二年尾川長久平合戦の時

父志次とちうく尾列大野
あり清政陣のほ冬列和地村と
ちうく
同十八年小田原陣と父とちうく
ほ備やちうく
冬も五年開原陣と父とちうく
大権現れほ備とちうく供とちうく
大権現大坂と渡清のちうく
新前國丸尾れ城とちうく

志めこもよ今年より翌年三月小
つらもちうく丸尾とちうく在書と
同年冬小田原乃城とちうく
先祖の城とちうく
同十二年ほ又部下とちうく叙とちうく
同十九年大坂清陣のちうく 仲小
ちうく冬列尾崎れ清城書とちうく
ちうく 仲とちうく大坂とちうく
き茶磨とちうくありとちうく

大權現おほごんげんに候まは侍さむらいとあり

元和げんわのおほごんげん大坂おさか再陣またゐりのこともき紀伊きい頼宣たののぶとあり

幼弱わがやうなりしこともあり候まは侍さむらいとあり

東冬あづまふゆのおほごんげん士率しそつ坂城さかぎにたも頼宣たののぶ錦にしん乃なり

候まは侍さむらいとあり

同年七月七日洛陽らくやうよりい平へいとあり

采女さいにょ平へい一いち法名ほふな次つぎ山やま全勝ぜんじやう

政吉まさよし

清水しみず権ごん之の助すけ家嗣けいすいやらからひて子ことあり

女子

松平まつだいら丹に守もり主政しゅせいが妻め

忠能ちゆのぶ

初名はつなをな高たか成なり候まは侍さむらいによ因情いんじやうとあり任まかじり

生國なまくに同なあり

慶長けいぢやう二年に江戸えどよりいとあり

大権現おほごんげん

台徳たいとく院いん殿でんをま拜まつとあり

同五年実原陣（いそはらじん）父（ちち）次（ついで）ら（ら）く
大権現（おほごんげん）一（ひと）供（たまは）な（な）と

同十七年浪（なみの）又（また）佐下（さした）小叙勢（せうじゆせう）ら（ら）

同十九年元和（げんわ）元年大坂（おほさか）方（かた）の法（はふ）

陣（じん）ら（ら）

台座（たいざ）院（いん）殿（でん）又（また）供（たまは）な（な）と

忠次（ちゆうじ）

宗（むね）長（なが）宗（むね）少（せう）尉（ゑう） 生（なま）園（のゝ）伊（い）豆（まめ）

寛永十年六月十日あり

將軍家（しやうぐんか）ら（ら）法（はふ）人（にん）ら（ら）と（と）ま（ま）ら（ら）

同十七年二月（にがつ）う（う）ら（ら）ら（ら）死（し）な（な）と（と）ま（ま）ら（ら）

法名（はふな）孤（こ）心（しん）玄（げん）翁（おう）

忠時（ちゆうじ）

九十九（きゅうじゅうきゅう）

將軍家（しやうぐんか）ら（ら）及（およ）へ（へ）と（と）ま（ま）ら（ら）

正次

三河右軍の尉 生國三河

元和七年

右衛門殿と評

寛永元年中法事院番頭つとむ

同五年合祿八百俵と評領と

同十年

將軍家より二百石とくつし海より且

右の根米とありしとて米地と

約合七百石と評領と

生勝

八上右軍の尉 生國同前

將軍家より法入りしとて米地より二百石

の合邑とありしと

家紋九曜

正三

本助 生國三河

家紋の目録 しつが

戸田

家傳いえでんしつしつ三條家の末葉まつえつ末列まつりゅう

戸田とだ小信このぶと氏うぢいしより流りゅうはる

天正てんしやう年中なかつ冬ふゆ別わか吉田きちだしつしつ

火災くわさい小家こけ系けいしつしつかぶかぶかぶかぶかぶかぶ

流りゅうしつしつしつしつ記きしつしつしつしつああしつしつしつしつ

氏輝

孫右衛門尉

清康君 廣忠ひろちかのついでに

弘治三年七月十二日辛酉年八月

法名石伯

氏光

吉田忠尉

廣忠のついでに

東照大権現おほくへついでに

永禄年中氏光の母と今川氏光が

方へ入質し、冬別吉田の城代

小原肥前守のあつてのさ

大権現吉田城を圍せりといふ事あり

氏光累世の主君のついでに

おしひ母のついでに軍忠のついでに

吉田城を圍てに没落のついでに

大権現氏光と号す（神代）と云ふいと及古田城
にありて汝志善氏ぬさんばは
事清感とつと他と云ふとぬる
天正十五年九月八日と記すと七年と
法名休祖

一西

左門

大権現

右儀院殿と云ふと云ふと云ふ
長六年江別大津城領地と云ふ
と云ふと云ふと云ふ

同七年 休祖（神代）ありて同國膳所（徳島）
城と築くも是儀領と大津の城を
山と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
なり

同年七月二十日膳所築くといふ
なり

六年二葉 法名道心

氏鉄

左門

天正十七年三月十日壬午の時に

めく

大権現（はくけん）一仕（し）〜〜〜法傳（はつでん）傳（でん）

文禄四年十月廿七日後五位下に叙

是又七年

大権現（はくけん）と松原勝清（しょうせい）進討（しんたう）の〜下野國（しもつけのくに）

小山（おのやま）進教（しんきょう）〜大坂（おさか）氏鉄（うぢてつ）

〜〜〜

同七年（てななねん）に父（ちち）が法（はふ）を〜後（のち）に膳所（でんじょ）の

城（しろ）〜居（ゐ）と領地（りやうち）の〜

大坂（おさか）方面（へん）の法陣（はふじん）は〜 仲（なかつ）〜

寺（てら）後（のち）に膳所（でんじょ）乃（すなは）城（しろ）を〜

元和二年七月二十日

右（みぎ）院（いん）殿（でん）膳所（でんじょ）法（はふ）を〜 務（む）所（じょ）尾（び）崎（さき）

領地五万石とたはらり則
佐々木一守りては地一城を築

寛永十一年垣田佐下小叔と

同十二年七月二十七日

將軍家尾崎とありて徳州大垣に城

領地十万石を領する

同十四年肥前國馬場を領する

利支丹の邪流蜂起とて乃とて

台を領するありては國より

翌年二月二十八日邪流區治の役正家

此汚腹指氏禰領に

同十八年八月二日

竹千代君清世生の時とて氏鉄汚腹帯

を

女子

板倉周防守重宗が妻

氏信

伊賀守 宋女正

元和元年六月二十七日任五位下

叙一 宋女正 小任

氏經

淡路守

元和七年五月二十七日任五位下

叙一

女子

本多お好守正孝の妻

女子

松平山城守忠國の妻

頼鉄

三右衛門尉

氏照

三右衛門尉

女子

戸田源之丞が妻

信鉄

本工助

氏包

新次郎

女子

氏春

山三郎

女子

氏利

山三郎

信貞

山三郎

旗幕紋九曜

●
考
吹

京
祇
白
河

市
橋

家傳くわでん 三保家さんぼけの末流むつりゅうなり
先祖せんぞ法外ほふがい池田郡いけだぐん市橋郷いちばしきょうなり
辰位たつゐといひられしやうへり
梅うめ号ごうといふ云

けり節絶

● 長利

壹波守 利發 一 一 一

生國 英流

織田信長より 信長より 信長より 豊位

秀吉に 了

天正十三年 三月十日 死

七十三歳 法名 節 齋 宗 介

長猪

坂田信下 下総守 生國 同前

徳川 今尾 城 了 了

けり 信長 了 了 了 了

その 了

東照大権現 了 了 了 了

景勝 謀 叛 の こと

大権現 野 列 小 山 了 了 了 了

冒乃曉川とわらり〜美討九段
伊波敗走と〜福塚の
城をせし欲〜事あり
〜大垣乃城〜入
〜長猪福塚の城〜所
〜東名れ城と大垣れ城の通海とさぐ
〜及と方あり大垣へ書信と通さる
〜のあり長猪教育〜を主捕と
福嶋正則〜正則これを

大権現〜九月十日
長猪いそに大垣の城下〜新村の渡
口〜討入五番の〜十六七人
〜し事と正則〜正則これ
を〜長猪と〜ぬ
実原没落の故一万余と〜人
〜二万子三万と〜れ
後裔〜ありけり
大権現の旗下と作と

同十二年、尾の城をあり、あ、伯列
夫橋の城を、海より

同十九年、大坂清陣、乃とさ、仲

し、あ、伯列、れ、あ、く、を、松、東、国、防、者

是、約、内、孫、正、一、属、一、て、吹、田、島、小

む、ふ、十、一、月、十、五、日、吹、田、川、を、こ、え、中、島

に、う、つ、つ、同、月、海、日、長、柄、川、を、こ、え、進、く

と、海、邊、一、し、く、ら、と、東、は、地、よ、く、ら、れ

之、の、月、防、者、内、孫、正、長、務、之、人、好、也、則

仕、考、を、川、邊、一、附、く、ゆ、り、り、り、り、り

の、ん、は、十、二、月、八、日、と、淺、川、の、淺、深、を

あ、ら、ん、た、め、あ、ら、ん、と、入、り、り、り、り、り

標、を、大、坂、城、の、堀、際、一、一、建

は、邊、乃、津、目、付、胎、約、推、大、丈、橋、海、軍、の

か、く、爪、民、約、廿、猶、ふ、り、一、こ、れ、を、刀、を

台、穂、一、一、を、進、ま、す

大、獲、現、一、し、と、感、悦、一、し、り、り、り、り、り

元、和、元、年、大、坂、再、陣、の、一、り、り、り、り、り

河川星田村と領知と欲吾星田村乃
を歸^{かへ}ばやとてしつとてし長勝望^{ながかつ}
とてしつとてしつとてしつとてしつ
事ありとてしつとてしつとてしつ
大権現星田村と陣とてしつとてしつ
とてしつとてしつとてしつとてしつ
かきつとてしつとてしつ

大権現星田村の發白とてしつとてしつ
長勝とてしつとてしつとてしつ

海とてしつとてしつとてしつ
我らとてしつとてしつとてしつ
しつとてしつとてしつとてしつ
らんとてしつとてしつとてしつ

大権現とてしつとてしつとてしつ
長勝とてしつとてしつとてしつ
改陣のつら同年七月伏見とてしつ
志とてしつとてしつとてしつとてしつ

〜〜

同二年

大権現神不祿のよしとむ多と野分と
つ〜 堀丹後守松念忠はち茶と
左場つ佐別兩孫次第ち〜び〜
長孫お又人とと〜れに〜く神
前よ信し〜ととと清恩と〜れと
あつ〜と譜伏の士と〜た

台座院教〜法〜

自か〜と〜と 作と〜

〜〜と野分と〜

江戸ふ〜と〜

同年八月

台座院殿越後國之糸球を〜

且合包二万石加倍〜

四万子二万石と傾と

同六年二月十七日率と

法名日悋院号法橋

長政

長政位下 下総守 生國同士の

長勝也 一子ありて美を林

右の七男の村が三男なり

慶長九年江戸小いなり

台徳院教より法久の書あり

大坂安房乃清陣より供をよむ

法海陣より下総國香取郡海と

船よりしるし地子石と

長勝越後より法久の書あり

三子石法祥の長勝より

越後より

元和六年長勝率より近江

河内より領地二万石と

町より家ありて江列を譲り

あらし 恩賜と感戴をせしむ

雅樂以心せ古井大炊以利勝本多

上野の今正統れと長政つつ

寛永十年正月十三日 台命と

かきあり西園十回列と也京同十日

正月十日 涉あり傳一國廻のり

をとらとと

同年二月廿日江列大と郡多賀

乃大祐涉是受あり長政 作と

かきありなりとはしる乃功

いもたららる聖年十一月十三

政信

日めれく江戸にり同月二日

七日 命をかきり涉所の郡

奉行とらる

長吉 武列江戸にる

寛永十年十二月二日

台命とらる

政直

傳左衛門尉 生國同家

家紋九餅式菱又誨三

はつと柿と先祖歛城也數年

とあつとくははかゝ歛城とたは

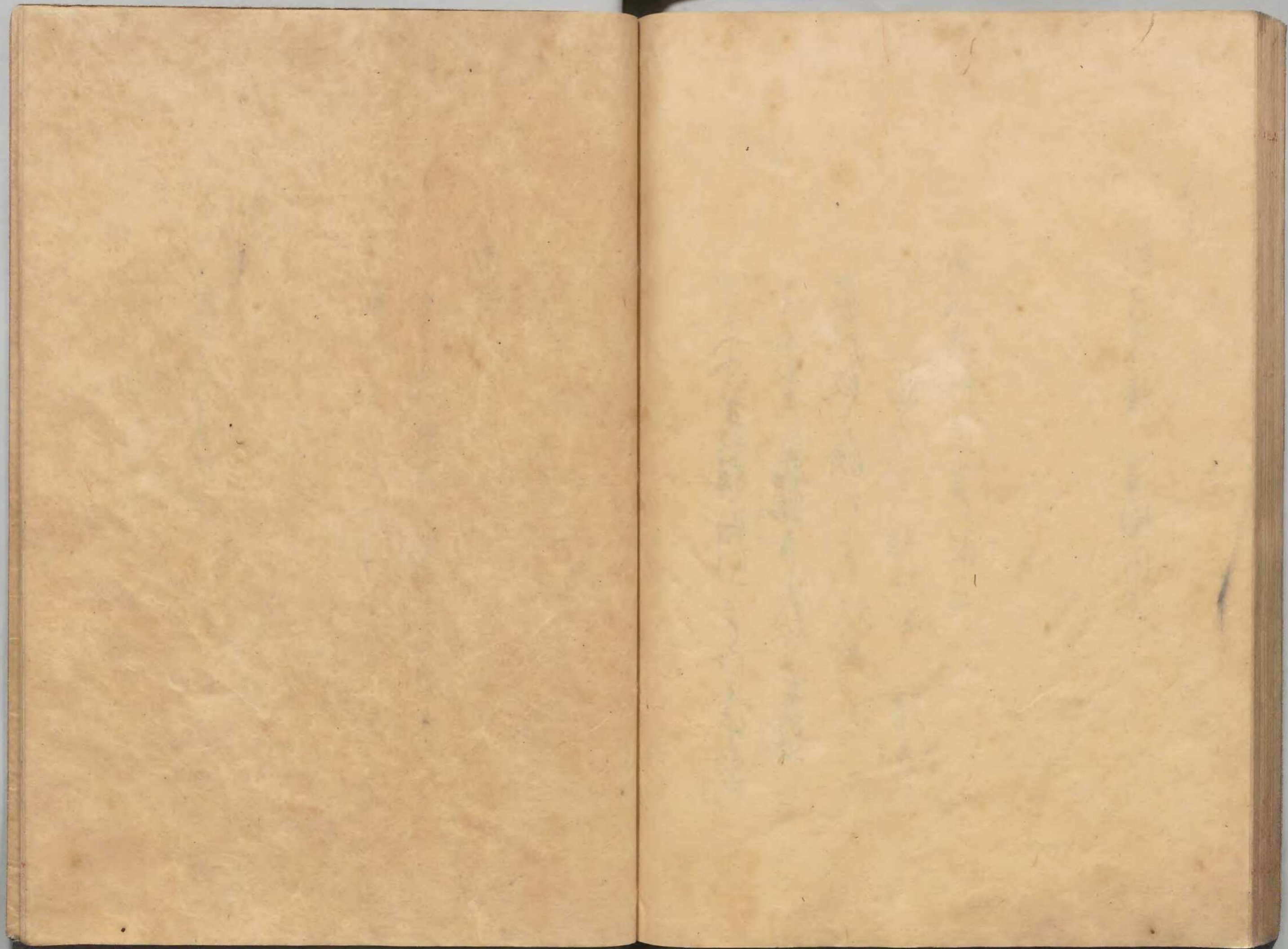
とたは二月一日たわりのかたは

いもたは鏡の誨とさつとさる

うへ小菱又誨之けとくははあ例

小のあつと九誨とさつと菱又誨と

家紋と次



● 東

武藤七郎左衛門

秋友山城守あきともやましろのり 一いち 法はふ

市橋いちばし

市橋いちばし 武友ぶゆう 一いち 法はふ

重成

金左衛門尉

氏家在京亮

長吉

三河守 生國 大濃

母族市橋下孫吉長猪

市橋と号以

元和七年九月十九日長猪

右近衛院殿

將軍家

同八年正月

永井右左大夫が紐^{くみ}して属^しして清
中統書^{しんとうしよ}とほしと免^{めん}且長務^{ちやうむ}が子長政^{ちやうせい}が
所領^{しようれい}乃内二子^{うちふたご}石^{いし}と長吉^{ちやうきち}より

寛永九年五月七日杉平侍^{すぎへい}賀^がちが
紐^{くみ}して清^{せい}中統書^{しんとうしよ}とほしと免^{めん}

同年同月八日命^{めい}とふけい^{ふけい}はら
他^たに^にありとつとほし

同年七月八日作^{しやく}と^とか^から^らし^しる^る院^{いん}書^{しよ}

配分の事をほしとほし

同年八月十八日急役^{きゅうやく}とあ^あら^らし^しめ
清使者^{せいしや}とほしとほし

同年九月二十二日^{しんねん}とあ^あら^らし^しめ
豊後守^{ぶんごのり}中の清目付^{せいめづ}とて十月

二日江戸をよ^よぎ^ぎとあ^あら^らし^しめ
翌年^{しよ}五月ふ^ふか^かつ^つち^ちとあ^あら^らし^しめ
翌年^{しよ}五月ふ^ふか^かつ^つち^ちとあ^あら^らし^しめ

御軍家と辨^{べん}して^{して}つ^つら^らを^を列^{れつ}
の事^{こと}とほし^しとあ^あら^らし^しめ
上^{じやう}国^{こく}と

達一也

同年八月十八日 津前より
右命とありあり目付とあり
同年十二月に江國よりきて
子石の領地とくく入る海より總て
三子石と記す

長綱

長綱印 生國武藏

長宗

寛永十一年二月十二日付
將軍家より福一とありあり海より

石松 生國同前

寛永十八年十月二日あり
竹代君ふけりありあり

家紋九餅或者又梅

